

2016年度教員による授業相互参観実施状況報告書(集約結果一覧)

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
法学部	【法律学科】8科目 【政治学科】1科目 【国際政治学科】2科目	【法律学科】8科目 【政治学科】1科目 【国際政治学科】2科目	<p>【法律学科】 今年度は、初年次の入門科目と着任後間もない教員が担当する科目を中心に公開するほか、任意に公開に協力する担当者の科目を公開した。相互に授業を参観した上で、参観者には感想やコメント等の提出を依頼した。感想・コメントを学科会議において配布し、構成員全体で共有することにより、他の担当者の工夫されている点を知り、自分の授業の参考にする機会となった。</p> <p>【政治学科】 「法律学特講」(法とスポーツ文化)オムニバス方式14名の教員、責任者:鈴木 各回の授業には、責任者の鈴木が毎回参加し管理している。また、学生に対する細かな連絡や問い合わせ質問に対しても担っている。 各回の授業は、教材(レジュメなど)連絡について授業支援システムを利用している。各回の授業は、担当の先生のスタイルは違っているが、基本的な内容に最近話題になっているものや最新の状況内容が豊富に盛り込まれている。 説明については、パワーポイントが使われている教員も多く、理解につながっている。 毎回、リアクションペーパーを配布し、要望や質問感想などを聞いている。 特に問題になる事については、各教員に伝えている。授業の事前や授業後に学生の質問を受ける時間を確保している。</p> <p>【国際政治学科】 実施方法:2人の教員が、それぞれ他の教員が担当する授業を1回(約1時間)見学。 効果:レジュメの作り方や学生からの質問への対応などに関して、相互に学び合うことができ、今後の授業改善のためのアイデアが得られた。</p>	<p>【法律学科】 今年度は実施期間が学期末に近く、短期間となつてしまったことから、公開科目数および公開日時が限られてしまった。次年度は、実施期間を長くすることにより公開科目の公開日時を増やすことが可能なのではと考える。</p> <p>【政治学科】 授業支援システムを利用しているが、掲載時期が遅くなる時があったので、なるべく早い掲載を心がけなければならぬと考える。 授業の事前事後にも、学生の質問などに答えられるようにできればより良いと考える。</p> <p>【国際政治学科】 特になし。</p>
文学部	68科目	6科目	<p>例年通り、春学期5月に、公開科目を一覧表にして専任教員に配布した。 なお、文学部の共通科目である「文学部生のキャリア形成」と「現代のコモンセンス」も実施科目数にカウントしてある。【FD推進センター長名の文書「2016年度教員による授業相互参観の実施について(各学部等)における実施と実施状況報告書提出のお願い」】における、「学部等による創意工夫・裁量によって柔軟な方法をご選択ください」という文言に依拠した】</p>	<p>教員の授業相互参観をFD活動に生かすために、より適切な実施方法の検討の余地はあるかもしれない。「全専任教員の授業にアポ無しで参観できる「オープンクラス・ウィーク」を半期ごとに1週間設ける」という案は一昨年度より話題のひとつに上っている。しかし、今日の多忙な通常業務を遂行する状況下で、上のような案も実際には単なる「掛け声」となるだけで実効性を疑う向きもある。換言すれば、「授業相互参観」に拘る施策は、ある水準を超えると、どこかに無理が生じる性質があるのではないか。この報告書の末尾「7. FD推進センターへの要望」に記した意見も参照していただきたい。(すなわち、文学部の6学科では、「授業相互参観」よりもむしろ、教員同士の「意見交換」や「振り返り会」等、FDミーティングに当たるものが活発に行われている(計39回)。FD推進センターは、「授業参観」だけに拘泥せず、そのような取り組みをも広く許容すべきである。)</p>
経済学部	73科目	6科目	<p>(1)実施方法 ①公開方法 経済学部専任教員は各担当科目のうち原則1科目は授業相互参観科目とする。 ②参観方法 経済学部所属教員は、所定の期間内にあらかじめ参観申込をしたうえで授業参観することとする。 ③公開期間 2016年6月20日(月)～6月23日(木)</p> <p>(2)授業実施者へのフィードバック等 参観申込み者には、執行部まで①授業担当者に対する感想、②授業相互参観制度に関する意見・感想の提出を依頼した。①授業担当者に対する感想については、授業担当者本人にフィードバックを行った。</p>	<p>(1)公開科目数に対して実施科目数が少なかったため、実施時期直前の周知を工夫し、実施期間の延長等を検討し、実施科目数を増やし、経済学部の教育力の向上を図ることが今後の課題である。</p> <p>(2)兼任講師を含めた授業参観の対応については、今後、検討していきたい。</p>

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
社会学部	全開講科目	40科目	<p>①オムニバス型の授業での実施(5科目): 授業の方法や内容に関する打ち合わせも行き、参加した教員が相互に刺激を与え合う機会となった。</p> <p>②本学部ゲスト講師制度を利用した外部講師を招いての授業を通じた実施(34科目): 外部講師を招聘し、その授業を参観するだけでなく、外部講師との応答や意見交換を行った。授業方法や内容に関し、刺激を受けることができた。</p> <p>③専門に近い教員間での実施(1科目): 授業内容に関心をもつ教員間で授業に参加し、内容について意見交換を実施した。</p>	<p>授業相互参観を含め、教員間の交流を通して授業の方法・内容の改善を図ることを促す。また、ゲスト講師制度を利用した授業等の情報の集約・事前の周知は現在も実施しているが次年度以降も引き続き徹底する。</p>
経営学部	原則として専任・兼任・兼任教員による講義授業とし、演習等の小規模授業は除く。ただし、公開するかどうかは各教員の自由に委ねた。	後述の参考資料の通り 計27回(2015年度25回、2014年度21回、2013年度12回)	<p>(1)実施方法 ・実施期間: 2016年5月23日から6月4日。学部での公開期間は上記の通りとするが、授業期間中は相互参観可能とする。 ・参観の方法:具体は以下の通りである。 ①参観者の範囲と参観:経営学部の専任教員とする。 ②事前許可:原則として、参観者は、事前にe-mail等で参観を希望する授業の担当教員に直接申し入れる。 ③入室および退室時間:授業の妨げにならないように、原則として、入室は授業開始前に、退室は授業終了後とする。ただし、授業途中で入室を希望する場合は、参観の申し入れの際に、その点をあわせて担当教員に申し入れる。 ④受講者への告知:参観教員がいることを受講学生にどう伝えるかは、各教員に一任する。 ⑤参観後のフィードバックと改善:参観後に、参観者は参考になった点等を公開教員に伝える。</p> <p>(2)効果 授業後、参観した教員から授業を公開した教員へコメント、感想などが伝えられた。参観を通じて他の教員の講義での授業運営を参考にできるとともに、フィードバックのプロセスを通じて授業を公開した教員の授業改善にもつながると思われる。以下に、参観者のフィードバック例を挙げる。 ・学生の理解度を高めるために常に分かりやすい説明を心がけていた。例えば、日常の出来事を変えて説明を行う、また、新聞記事をピックアップしたり、スマートフォンで検索した内容を即座でOHPに映したりして、授業内容を分かりやすく説明すると共に、それがテキストのどの部分につながるかを随時説明していた。 ・細かいB/S等の情報を使う上で、書面カメラを有効に活用されており、時間的にもビジュアル的にも合理的な方法に感じました。 ・時事的なビックに、日経ビジネス誌レベルの雑誌に紹介されているような関連ミクロ(企業)情報も加えると、学生の目線が一般企業のビジネス・パーソンの目線に近づけられるような気がしました。 ・もう少し学生の顔を見ながら、もっとゆとり、もっと多くの間を取りながら話した方がよい。(手元のハンドアウトを見る時間+スクリーンを見る時間>学生の方を見る時間、だった)。これはご本人のエネルギーをセーブするためだけでなく、学生の理解度を確認しながら授業を進める(例えば、追加説明を加える)上でも必要。</p> <p>(3)昨年度に示された課題を踏まえ、以下の点を改善した。 ・参加者の構成について、本年度は、執行部、着任1年目の教員に加え、着任10年以上の中堅およびベテランの教員による授業参観も行った。これによりベテラン教員や社会人経験の長い教員から、若手教員へ改善のためのアドバイスを受けることができた。 ・授業参観の状況が学内評価委員からのヒアリングでも話し合わせ、学部運営に反映させることが試みられた。</p>	<p>・授業参観を通じたコメントや感想など、参観者から授業担当者へ個別にフィードバックは伝えられたが、他の教員と情報を共有する機会は設けられておらず、執行部と共有するに留まっている。今後、FD懇談会などの機会を通じて、議論する場を設け、学部教育を活性化したい。</p> <p>・経営学部で実施している学生へのヒアリングや、FDアンケートなど、他の取り組みとの連携を図ることで、学部教育への理解を深めたい。</p> <p>・経営学部では、現在、カリキュラム改革を進めている。そこで課題として上げられている、同一名称で開講される授業の内容の共通化や、学習プロセスにおける授業間の連携といった問題への解決の参考としたい。</p>
国際文化学部	専任教員が担当する全科目	16科目(春学期6科目、秋学期10科目)。 一科目に複数の教員が参観する場合も含まれるため、参観総件数は19件(春学期8件、秋学期11件)。	<p>春学期、秋学期ともに、教員から「公開してもよい自分の授業科目名・曜日時限・教室・公開時期」を募り、リストにして教授会で共有し、このリストを活用した相互授業参観を各学期複数回呼びかけた。それに加え、個別に教員と連絡をとり、リストにない授業を参観する手はずを取ることも可能とした。その結果、昨年度よりも参観者数を大幅に増やすことができた。</p>	<p>例年に比べ大幅に授業参観者を増やすことが出来たとはいえ、昨年度と今年度の参観者を合わせても22名であり、「専任教員は少なくとも2年間で最低一回、他の教員の授業を参観することを目指す」という2014年度3月3日開催の第11回教授会での決定を反映しているとはいえない。</p> <p>ただし学部で取りまとめたアンケートによると、参観した教員からはおしなべて、学ぶところが多かった等の極めてポジティブな回答が得られた。実際、昨年、今年度と連続して、あるいは春、秋学期とつづけて他教員の授業を参観する教員が少なからずみられることから、教員自身が感じる効果のほどを見て取ることができよう。</p> <p>今年度導入した「公開授業リスト」使用に加え、こうした授業参観の効果の周知を通じて、これまで参加していない教員を授業参観に巻き込むことが、今以上に参観率をあげる鍵になるかと思われる。</p>

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
人間環境学部	全科目	6科目	<p>本年度の相互授業参観は、法政大学に入職して期間が短い教員3名を対象に、その目的などを説明し同意を得て秋学期の後半に行った。実施方法として対象教員それぞれが参観してみたい授業(教員)を選択および依頼し、都合を合わせて相互の授業を参観した(合計6授業実施した)。</p> <p>対象教員が、自ら参観したい授業を選択したことにより、受動的でなく能動的に進んだと考える。今回の参観はそれぞれが比較的分野に近い授業(教員)で行った結果、「自身の授業にフィードバックが可能となりやすい」、「共通基盤の形成に大いに役立った」といった意見がだされた。また普段パワーポイントを利用する教員からは、「板書を中心とした異なる授業の進め方を参観して、自身の授業へ大いに参考になった」とコメントした教員もいた。</p> <p>また本学部では1年生を対象に「人間環境学への招待」という授業を春学期に行っており、5つのコースごとにそれぞれ2名の教員が各自の専門性を踏まえた講義を40分間行っている(合計10教員)。講義はそれぞれが独立した内容で行った場合もあれば、一つのテーマに沿って、ディスカッション形式で行った授業もあり、互いの考え方や話し方などが理解することができた。</p> <p>それとは別に本学部ではフィールドスタディという現地学習が国内外で19コース(2016年度)あり、その中で複数の教員が担当するコースが10コースある。異なった専門領域の教員が協力して参加することで、学問領域を超えた教授方法の工夫など、理解することができた。本学部におけるフィールドスタディは、FDの一つである授業相互参観の目的を果たしていると考えられる。(※なお、人間環境学への招待およびフィールドスタディに関しては実施科目数には加えていない)</p>	<p>今年に入職期間が短い教員を対象に授業参観を行った。実施後の感想として「学ぶべき内容が多かった」と比較的好評であったため、次年度以降、新任教員には入職した年度に行ってもらうように検討していく。それとは別に、現在5コースに分かれてカリキュラムを組んでいることから、定期的にコース内で授業相互参観を行うことも検討したい。また、一年生を対象とした基礎演習は、最低限行うべき内容はあるものの、その他多くは担当教員の裁量に任せている。しかし、ある程度の教育効果を等しく担保するために、モデルとなる講義を選別し、授業を参観していくことも検討するべきであると考えている。</p>
現代福祉学部	現代福祉学部専任教員の担当科目(ただし、演習・実習科目、情報・調査系科目、言語コミュニケーション科目、その他、担当教員が公開を希望しない科目を除く)	12科目	<p>(1)実施方法 a.公開期間 春学期:2016年6月2日(木)~6月16日(木) 秋学期:2016年12月5日(月)~12月16日(金) b.公開範囲 法政大学教職員 c.申し込み方法 事前申込制</p> <p>(2)効果 以下のような点を中心に、教授方法の工夫や学生への対応など、教員間での学びを深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で外部講師を招いての講義があり、前週に外部講師の取り組みについて事前アナウンスを行うことで学生の関心を高める工夫がなされていた。また実際の活動や課題について実践的に学ぶ機会となっており、発展的学習の効果的な方法と考えられた。 ・リアクションペーパーのまとめの配布、学生の座席移動、ダイアログ形式の重視、グループワークの活用など、学生を主体的に授業に参加させる様々な工夫がなされていると共に、思考力を身につけさせる授業構成が参考になった。 ・基礎ゼミの中で取り組んだグループ研究を発表する合同コンペが行われた。学生の授業時間外での学びのモチベーションを高めるだけでなく、プレゼンテーション能力の向上にも繋がっていた。また他の教員のクラス運営や指導方法を知る貴重な機会となった。 ・各講義それぞれに指導の工夫が感じられ、非常に参考になった。 	<p>相互参観の機会をより増やすために教授会等での教員へのアナウンスを含め、教員相互の理解を促していきたい。</p>

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
情報科学部	全科目	7科目(春3 秋4)	<p>新カリキュラム2年目であり、複数講義が開講される新科目で授業参観を積極的に進めた。特に、プログラミング科目では授業間の進捗や学生の理解度の共有が重要であるため、プログラミング1(C/C++)、プログラミング2(C/C++)、プログラミング1(MATLAB)、プログラミング演習3で、授業参観あるいは代講を実施した。プログラミング2(C/C++)では、ほぼ、全講義の授業参観を行い、その結果、期中に教える内容を一部修正するなど、講義内容に反映させた。3人の教員によるオムニバス形式の講義である情報検索においては、互いの授業内容や学生の理解度共有のため、2回の授業参観を行った。この結果、情報検索の科目のベースとなる数学的知識が学生に不足していることが共有され、後半の講義内容に基礎数学を含めるなどの対応に繋がった。</p>	<p>新カリキュラム3年目に当たり、卒論など一部を除く講義科目の完成年度を迎える。講義内容の重複や科目間の伝達不足がないように、適時、授業参観を進める必要がある。</p>
キャリアデザイン学部	22科目	4科目(参観者数は8名)	<ul style="list-style-type: none"> ・公開状況(集中実施は6月、ただし他期間でもよい)が一目で分かるよう、サイボウズに時間割表を掲載した。 ・そのさい、授業者より、参観者にチェックしてもらいたいポイント(講義形式にて、学生にとって馴染みのないテーマを扱う際の問いかけの仕方、グループディスカッションであまり発言していないのはどんな学生か、など)を、予め提示した。 ・実施科目数÷公開科目数は昨年度と同様2割弱であったが、実施科目についてはピアサポートの効果がもたらされた。 	<p>・誰もが多忙なかたで実施比率を上げるのはなかなか困難であるが、公開だけでも授業者に緊張感がもたらせるので、現行水準を上回る公開授業数を維持したい。</p>
デザイン工学部	【建築学科】16科目 【都市環境デザイン工学科】 学科主催の全科目(他学科 学生との混成クラスを除く) 【システムデザイン学科】8 科目	34科目	<p>建築学科においては、1年次から4年次に至る全てのデザインスタジオ科目をはじめとし、卒業研究・卒業設計において、全クラス合同の講評会を行い、兼任を含む教員が相互に他の科目やクラスの内容について理解し議論できるようにしている。さらには、公開の講評会により学内外に対して学習成果を公開し、とくに学外からの評価を受ける機会を設けている。</p> <p>加えて、スタジオ科目、フィールドワークおよび修士設計、卒業設計での優秀作品と、卒業研究の梗概を、それぞれ学科発行誌「法政大学スタジオワークス」、「建築研究」に掲載することで達成状況を共有している。また、年度末には、全スタジオ(デザインスタジオ1～11)、造形スタジオ、構法スタジオ、デジタルスタジオ)の専任・兼任教員が一堂に会し、相互参観の感想を基本とした設計教育の振り返りと、新年度方針について討議する機会を設けている。</p> <p>一方、各授業での活用資料や学生の学習成果はもれなくサーバーに蓄積されており、これを学生の自習のため、あるいは教員の授業改善また相互参観のための参考資料として閲覧できる仕組みを設けている。</p> <p>都市環境デザイン工学科においては、学科主催の科目について全教員(兼任も含む)を対象として、授業をビデオ撮影し、相互に参観できるようにしている。具体的には、授業冒頭10分間程度をビデオ撮影し、学内の共有サーバー(専任教員向け)、学科事務内の共有PC(兼任教員向け)にアップロードし、専任教員には動画ファイルを収録したDVDを配布して適宜確認するようにしている。</p> <p>システムデザイン学科においては、1年次「導入ゼミナール」におけるフィールドワーク成果発表、3年次「プロジェクト実習・制作1」、「プロジェクト実習・制作2」、4年次「フィールドワーク(SD)」、「応用プロジェクト」等、クリーション系、テクノロジー系、マネジメント系横断型必修講義、演習授業が設置されており、各授業、演習授業において各教員の授業相互参観がなされている。</p>	<p>都市環境デザイン工学科において、概ね3-4年程度で全ての対象全科目を撮影・相互参観を目指している。</p>

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
理工学部	<p>*専任教員が担当する全科目(2016年度秋学期開講567科目)</p> <p>機械工学科:108 電気電子工学科:59 応用情報工学科:63 経営システム工学科:99 創生科学科:143 小金井学部共通:95</p>	27科目(機械4, 電気4, 応情11, 経営2, KLAC6)	<p>1.実施時期 2016年度 秋学期(9月16日(金)~1月22日(日)まで)</p> <p>2.実施方法 以下の2通りを実施した。</p> <p>a) 個別授業相互参観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専任教員は、全ての担当科目を原則として、期間内授業相互参観可能な科目とする。 ・専任教員は、担当教員に連絡の上、所定期間内は自由に授業参観をすることができる。ただし、授業運営の支障とならないように、特に配慮する。 ・相互参観希望者は、科目担当教員と事前に、科目、曜日、希望参観時間(15分~90分 任意)を調整し、教室等内等で参観する。 ・参観した専任教員は、必ず参観報告書(委員会提出用及び担当教員提出用)を記入し、各学科担当委員及び科目担当教員に、個別に提出する。 ・実施期間内に各学科の専任教員数の1/3以上の教員の参観を原則とする。 <p>b) 学科に特化した柔軟な運用による公開(学科別)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学科別にa)とは別の形式で、学科独自の柔軟な運用を含む授業相互参観について検討・実施する(例 PBL、実験・演習、オムニバス形式授業、研究室配属説明会、卒業・修士論文中間発表会を用いたプレゼンテーション能力の検討等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観の実施率の向上及び個別の授業参観報告書のフィードバック方法の検討 ・客観的な授業改善に関するチェックを簡易的に見えるシステムの検討(報告書含む) ・兼任講師を含めた、全授業における授業相互参観は2018年度より実施 ・組織的な授業相互参観重点科目の検討
生命科学部	春学期94科目 秋学期91科目	春学期27科目 秋学期23科目	<p>生命科学部では、今年度、春学期(6月6日~7月2日)と秋学期(11月7日~12月3日)の2回、授業公開として法政大学の全教職員向けに授業を公開した。授業公開に対する兼任講師陣の理解も深まり、公開科目数が増加した。また、本年度は他学部教員の参加を得て、より広くの意見を得ることができた。昨年同様に教員からは、参加することによって自らの授業に活かすとともに、参観を受けることが講義を見直すきっかけになったとの意見も聞かれた。</p>	<p>次年度以降も同様の形態で授業相互参観を継続したい。しかしながら、近年参加人数が横ばいの状態であり、今後一層の参加を呼びかけたい。</p>
グローバル教養学部	25科目(春10 秋15)	25科目(春10 秋15)	<p>100番台14科目、200番台9科目、300番台で2科目実施し、すべてGISの専任教員が参観できることとした。執行部や各分野の専任教員が該当科目の授業を参観し、授業後や後日該当教員にフィードバックをし、必要に応じて面談を行った。また、報告書を教授会ポータルで共有した。春学期には教授会で、秋学期にはFDワークショップを開いて、参観の結果を教授会メンバー全員に口頭で報告し、授業内容や教授法について議論をした。</p> <p>新カリキュラムの発足に伴い、専門科目の大幅な増加に加え、新英語必修科目も大きく変更したため、今年度の授業参観の対象はこれらの科目を中心とした。専門科目について、内容やレベルが学部のカリキュラムポリシーにあっているかどうかを確認することができた。多くの新兼任教員の授業の創意工夫からは学部専任教員も学ぶべきことが多い一方、新兼任教員には学部の特徴でもある少人数双方向授業の運営スキル、板書やスライドの工夫などについてアドバイスができ、相互に得るものがあった。</p> <p>新たに設置された各英語必修科目(Basic Writing Skills、Academic Writing Skills I & II、Reading Skills I & II及びDebate & Discussion)では共通シラバスが導入されたが、学生の英語能力レベルも担当の教員も様々である。Debate & Discussionは8コマ(3つのレベル)があり、6名の兼任教員が担当した。今年度はこの科目のシラバスを書いた専任教員が6名の兼任教員のDebate & Discussionを全て参観した。授業参観で明らかになったのは同じシラバスを使っても同じ授業にはならないことである。当然、柔軟性が必要で、現場の教員に任せて良い部分もあるが、来年度に向け、どの教員の授業であっても共有されるべき部分を明確にしていくための重要な参考資料となった。</p> <p>授業参観は当学部の教員によるテーマ別のFD ワークショップで取り上げた教授法にもつながり、FD活動がさらに活発化された。必修英語科目を担当する兼任教員の工夫や副教材の豊かさが授業参観によってわかったため、これらの教員の交流の場を設定するきっかけにもなる。このように、授業相互参観は学部内の様々なFD活動と繋がり、全体的に高い質の授業を、さらにレベルアップする効果があった。</p>	<p>増コマによる新設科目や新任兼任教員の授業参観を継続する一方、英語必修科目のライティングとリーディング系も今年度Debate & Discussionで行ったように、一人の専任教員が全て参観することにしたい。また、公開されている授業には、より多くの教員の参観を呼びかけたい。</p>

学部名	公開科目数	実施科目数	本年度の報告【まとめ】(実施方法・効果など)	次年度への課題
スポーツ健康学部	全科目	15科目	2016年度は昨年度の反省をうけて、教員全体に早い段階でかつ繰り返し参観希望を確認することで実施率を高めることに重点を置いて実施した。結果、昨年度7科目であった実施件数は15科目に増えた点は一定の成果がみられたと考えられる。しかしながら実施している教員が限られている部分もあり、引き続き課題の残る結果となった。	次年度への課題として、以下の2点を考えている。 1. 全学部専任教員の本制度への参加 2. 授業相互参観の報告を教員間で共有し、授業改善につながる取り組みとする。
市ヶ谷リベラル アーツセンター	全科目	7科目	2014年度に取り決めた内部質保証活動の項目として、次の3パターンに分類した。1. 新任教員が参観者となる研修型。2. 授業相互参観。3. ビデオ機材を利用したセルフ型参観。でFD活動を実施した。更に2016年度は左記3パターンに加えて、兼任教員との懇談会の場等を通じて、4. 教員相互授業情報交換会をFD活動の一環として実施し、その内容はILAC独自報告フォーマットにて報告を行い、年度末に開催した内部質保証委員会と共有した。一定の効果は認められた。	4つの形式によるFD活動を継承・推進させていくとともに、授業の方法、学生の反応、アクティブラーニングその他に関する授業の工夫などについて、授業の質の向上を相互に図るための仕組みづくりを構築したい。
小金井リベラル アーツセンター	専任教員が担当する全科目に加え、一部の兼任講師が担当する英語科目(3科目) 理工学部主催95科目・生命科学部主催科目32科目 合計127科目	生命科学部主催:8科目(延べ数) 理工学部:6科目	1. 実施時期 理工学部:秋学期授業期間 生命科学部:春学期・秋学期授業実施期間 2. 実施方法 個別授業相互参観を基本とした。 ・専任教員は、全ての担当科目を原則として、期間内授業相互参観可能な科目とする。 ・専任教員は、担当教員に連絡の上、所定期間内は自由に授業参観をすることができる。ただし、授業運営の支障とならないように、特に配慮する。 ・相互参観希望者は、科目担当教員と事前に、科目、曜日、希望参観時間(15分～90分 任意)を調整し、教室等内等で参観する。 ・参観した専任教員は、必ず参観報告書を記入し、科目主催の学部にて、個別に提出する。	・授業相互参観の実施率の向上のための具体策の策定 ・個別の授業参観報告書のフィードバック方法の検討 ・兼任講師を含めた全授業における授業相互参観は2018年度より実施予定(検討中) ・組織的な授業相互参観重点科目の検討